

# 事務局からのお知らせ

## 1. 新会員番号について

昨年7月により、会員番号が「nboseik-〇〇」という表記から、10ケタの数字に変更しております。昨年6月までにご入会いただいた会員の皆様には、すでにお知らせしておりますが、まだ十分に周知されていないようです。新会員番号は、ニュースレターの宛名ラベル右下に記載されておりますので、ご確認くださいませますようお願いいたします。

## 2. 入会申請・会費の支払い等について

**入会の申請：**入会受付は常時行いますが、入退会の承認は隔月（9月・11月・1月・3月・5月・7月）の理事会で行います。奇数月15日までの申請分はその月の理事会の審議に諮ります。お早めにお申し込みください。

**会費の支払い：**従来のクレジット払いは使用できなくなりました。下記口座への入金をお願いいたします。

- 1) 郵便振込の場合(青色振込取扱票)  
口座番号：00890 - 3 - 128235  
加入者名：日本母性看護学会
- 2) 銀行振込の場合  
ゆうちょ銀行 〇八九店 当座0128235  
会費：入会費 2,000円(初年度のみ)  
年会費 8,000円

## 3. 平成24年度会費の支払いについて

学会は皆様の会費で運営されております。平成24年度会費未納の方には、本ニュースレターに郵便振戻り用紙(青色払込取扱票)を同封しておりますので、会費の納入をお願いいたします。

(庶務担当理事 坂上明子)

## 「母性看護専門看護師(CNS)と教育・研究者との交流会」のご案内

### 日本母性看護学会主催 母性看護専門看護師(CNS)と 教育・研究者との交流会

平成14年に母性看護が専門看護師の分野に認定され、平成15年より認定が開始されました。そして現在、母性看護専門看護師教育課程を有する教育機関は30となり、母性看護専門看護師38名を輩出してきました。平成24年度には、専門看護師教育課程を38単位へ移行させることが決まると、認定制度の変更などが行われています。本交流会では、実践者と教育・研究者が語り合うことによって、母性看護専門看護師の実践や教育の現状を共有し、今後の課題を明確にします。

テーマ：母性看護専門看護師の現状と課題～実践者と教育・研究者の語り合い～  
日時：平成25年1月19日(土) 10:30～12:15(受付開始10:00)  
場所：京都府立医科大学 学生課5階3会議室  
(京都市上京区河原町通広小路上る鞍馬町465番地)  
アクセス <http://www.fkku-u.ac.jp/doi/about/outline/access.html>  
※大正門を入ってすぐ右側にある建物「学生課」の5階にやります。  
参加者：母性看護専門看護師、母性看護専門看護師の教育を担っているまたは今後開講を予定している教育機関の教員、研究者など  
参加費：無料  
プログラム：  
10:30 開会  
10:30～10:45 総論提供「専門看護師教育課程38単位へ移行した実践と高専実践者との関係性」日本母性看護学会理事 町澤美智子  
10:45～11:00 参加者自己紹介  
10:45～12:15 全席討論・まとめ

申込み方法：下記までメールまたはファックスにて、ご氏名・ご所属・ご連絡先をお送りください。  
申込み期日：平成24年1月10日(木)



【お問い合わせ先】  
日本母性看護学会事務局プロジェクト事務局(京都・京田)  
京都府立医科大学 看護学内  
〒607-8175 京都府山科区大屯山田町34  
電話 075-574-4250/4334  
FAX 075-574-4334  
E-mail tokifu@fackibana-u.ac.jp

# 日本母性看護学会ニュースレター

Japan Society of Maternity Nursing News letter No.14



発行 日本母性看護学会 事務局：〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協支援センター内 日本母性看護学会事務局

## 日本母性看護学会の一般社団法人化への歩み

日本母性看護学会 理事長 森 恵美

平成11(1999)年6月に、日本母性看護学会は母性看護学の進歩発展を図り、母子及び女性の健康と家族の福祉に貢献することを目的に誕生しました。設立当時の会員数は約200人でありましたが、本学会は設立13年目を迎え、会員数は約500人となり、中堅学会として発展してきております。毎年、学術集会が盛大に開催され、CTGセミナー等事業も活発に行っているところでございます。この場をお借りしまして、この12年間の本会活動にご尽力いただきました初代理事長前原澄子先生、前理事長高橋真理先生をはじめとした理事会メンバーの先生方に、心より敬意と感謝の意を示させていただきます。このように、理事の皆様による手弁当の社会貢献でここまで成長して参りましたが、任意団体であるため活動が制限されております。一方、多くの看護系学会が法人格を取得して活動を拡大し、看護学の立場から社会貢献をしているところでもあります。少子高齢化社会にあたり、妊娠出産、女性や母子の健康に関連する健康問題も複雑化している中、本学会が組織的活動や社会的発言力を強化する必要性も高まっているということが理事会において確認されました。それを受けて、昨年度の総会において、本学会も一般社団法人化に向けた検討をすすめていくことのご了解を得ました。平成23-24年度の本学会理事会においても検討を重ねた結果、日本母性看護学会もその目的の達成に向けて、社会的な発言権、交渉権等を持つ組織としてさらに充実した活動ができるように、法人格を取得する必要があるという結論に達しました。すなわち、現在のような任意団体のままでは限界が大きく、社会的発言権がないため、本学会が保有する財産を管理して、学術的活動を公正に運用するには一般社団法人となることが必須であるという結論に至りました。

そこで、平成24年6月の学会総会において、平成24年度(平成25年3月31日付け)をもって旧団体の日本母性看護学会は解散し、平成25年4月に一般社団法人日本母性看護学会の登記申請をすることについてご提案し、審議の結果、承認されました。なお、一般社団法人法に則り現理事会で作成した、新団体である一般社団法人日本母性看護学会の定款案については、総会前に会員全員に提示し、総会時までにご賛同を確認させていただきました。会員の皆様には、この趣旨、定款案、並びに一般社団法人日本母性看護学会の会員に移行することにご理解とご賛同をいただき、心より感謝を申し上げます。会員の皆様からご異議申し立てのご連絡はございませんでしたので、本件についてご賛同だけいただきましたものとして、新しい一般社団法人日本母性看護学会の会員としての手続きを取らせていただきます。

現在、総会での決議を受けて、一般社団法人日本母性看護学会の登記申請に向けての書類整理、定款に合わせて細則などの整備をしております。一般社団法人の登記申請は来年3月に行います。団体としての事業の開始は、平成25年4月1日からとなりますが、申請結果の通知は平成25年7月以降となると予想されます。平成25年の学会総会は旧団体である日本母性看護学会の最後の総会となります。最初の社員総会は初年度事業が終わった後、平成26年6月の学術集会開催に合わせて行なうこととなりますので、ご了解のほど宜しくお願い致します。皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、一般社団法人日本母性看護学会として更なる社会貢献ができるよう、会員の皆様におかれましても、今まで以上に本学会活動に積極的なご参加やご尽力をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

今回は、母性看護CNSの活動報告をいただきました。年間1,000件を超える分娩を扱いつつ、ハイリスク妊産婦および新生児、そして母子同室のケアと幅広く活躍されている様子に感銘を受けました。(和智)

一般社団法人化に向けて準備が整ってきたことが伺われます。シンボルマークも決まりました。一般社団法人化後の本学会のますますの社会貢献や社会的に認知されることを目指して、webサイトによる広報活動を軌道に乗せていきたいと思っております。(大平)

発行人：森 恵美  
発行日：2012年12月21日  
広報担当：大平光子、村本淳子、松原まなみ  
編集担当：大平光子、和智志げみ  
発行：日本母性看護学会  
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22  
大学生協学会支援センター内  
日本母性看護学会事務局  
Tel: 03-5307-1175 Fax: 03-5307-1196  
E-mail: jsmn@univcoop.or.jp



# 各分掌からのお知らせ

## 第7回日本母性看護学会セミナー開催と第6回日本母性看護学会学術論文賞の報告

第7回日本母性看護学会セミナーは第14回学術集会前日に兵庫医療大学看護学部との共催で開催しました。講師にノースカロライナ大学チャペルヒルズ校看護学部の余善愛博士を迎え、講演のテーマは「米国で広がりつつあるセンタリングプレグナンスの背景と現状を考察する」でした。妊婦がグループで定期的に診察を受け、一緒に集い悩み事を話し合うというシステムについて、多くの写真とともにご紹介下さり、妊婦の仲間作りが米国でも広がっているこ

とが理解できました。参加者は会員44名、非会員18名、学生43名ほか計107名でした。今後は学術集会とタイアップしてセミナーを開催することも視野に入れて開催日程、場所等を検討していきたいと思えます。

第6回日本母性看護学会学術論文賞は、学会誌第11巻1号に掲載された武石陽子さんらの原著「妊娠期の快適性に関する尺度開発」に決定し、学術集会において授賞式が行われました。

(学術・教育支援担当理事 町浦美智子)

## 研究促進担当からのお知らせ

研究促進では、学会員の研究活動の促進を目的に活動しています。主な活動は、1. 会員が申請可能な助成金等の情報を提供すること、2. 若手ならびに臨床で働く研究者の支援を行うことです。1つめの活動は、会員が申請できる助成金等の情報提供をホームページを通して行っています。2つめの活動は、若手研究者あるいは臨床で働く会員の研究活動を促進す

るために平成21年度より研究助成制度を設け、平成22年度より助成金支援を実施しています。平成25年度研究助成の募集は、平成25年1月から2月末まで行います。若手研究者や臨床で働く方の研究活動を支援したいと考えておりますので、是非ご応募いただきますようお願い致します。

(研究促進担当理事 工藤美子)

## 戦略的プロジェクト担当からのお知らせ

戦略的プロジェクトでは、2012年度の主なる取り組みは、①看保連の課題である看護技術、診療報酬改訂にむけての提案への参加、②助産師団体連絡会への参加、③母性看護CNSの現状と課題の明確化と高度実践看護師(助産師)のあり方への検討、④災害看護関連の4課題への対応をしています。

看護が専門職としてよりその能力を発揮できるように、成果を広く国民に示すことにあります。エビデンスを出すということです。そのために、看保連が

行っている診療報酬改定に合わせて、ケアの成果を出すことが最優先になります。平成28年度に向けて、本学会もチャレンジできるよう研究班をつくることを提案しています。

また、CNSの教育課程38単位となりつつあります。母性看護CNSの皆様と教育機関の教員の語り合いの会を企画しました。お時間の都合のつく方のご参加歓迎です。

(戦略的プロジェクト担当理事 遠藤俊子)

## CTG判読スペシャリスト

第4回プラクティカルCTG 1 Stセミナーは、H24年8月11日(土)12日(日)兵庫医療大学にて開催した。参加人数は、111名であった。講師は三重大学大学院医学系研究科教授 池田智明先生、国立循環器センター医長 桂木真司先生である。セミナー受講修了者である母性看護専門看護師5名に演習アシスタントを依頼した。

CTGに関する講義を受けた後、15グループに分かれ、CTG判読と対応の実際に関するグループワークを行った。多くの参加者が事前学習を行っており、判読困難事例に対する質問が多く寄せられた。中には実際の事例を持参し助言を求める者もあり、講師の先生は、休憩時間も惜しまず助言をしてくださっ

た。グループワークにおいては、課題事例におけるCTGの判読や対応に対し活発な討議が行われた。各グループの発表の際には、講師の先生からコメントがあり、理解をさらに深める機会となった。研修プログラム終了後も質問が途絶えず、参加者の熱心さが際立つセミナーとなった。

今年度の認定試験合格者を含め4年間で361名がCTG判読スペシャリスト1 St修了の認定を受けている。年々認定試験の平均合格点は上がっており、資料による事前学習だけでなく、臨床における実践的学習が行われていることが推測された。

次年度のプラクティカルCTG1 Stの開催は、8月頃に東北大学で開催する予定である。

(CTG担当理事 島袋香子)



## 学会のリーフレットをリニューアル シンボルマーク、シンボルカラーを決定しました！！

本学会リーフレットをリニューアルするに伴い、シンボルマークを決めることになった。提案されてきた19個のモチーフの中から選ばれた原案は、当初2つの人型が子どもを育てる男女をイメージさせるよう女性像がやや小さく描かれていた。「子どもを育てるのは必ずしも男女のカップルばかりではない。2つの人型は同じ大きさに」という理事会の意見により、現在のシンボルマークが決定した。



第14回日本母性看護学会で投票

シンボルカラーは本年の当学会で、参加会員の投票により決めることとなった。結果、5種類の候補色の中から、投票総数90票中、55票を獲得したピンク色に決定された。

本学会学会誌やHPなどに広く活用していきたい。



シンボルマーク制作風景  
制作者の瀧山愛さん(千葉大学工学部デザイン学科)と指導者の宮崎紀郎先生

(広報担当理事 松原まなみ)